

# 学校をつくろう！通信



## 第148号

### 学校の役割 その125

作家の池澤夏樹さんから届いたメールを、省略させて頂いたところがありますが紹介します。

\*\*\*\*\*

それぞれの場所で、

それぞれの言葉で「花はどこへ行った」を歌おう！

ウクライナとロシアの国境地帯から生まれた歌を。ロシアの文学者とアメリカの音楽家が世に送り出した歌を。高らかに、願いを込めて。この星が歌声で包まれるように。ウクライナとロシアの、市民と兵士たちのために。この星の平和を願って。

©530「ぼくたちは歌う」委員会

\*\*\*\*\*

「花はどこへ行った」について

大事なのはウクライナだけではない。

大事なのは平和だ。

そのための運動に武器を持たない者が歌で参加する。たとえばこの歌で。

ロシアはどうしてしまったのか、とぼくは考える。

ロシア語では「平和」と「世界」がМИР (ミール) という同じ言葉なのに。

彼らも歌ってくれればいいと思いながら、ぼくたちは歌う、「花はどこへ行った？」を。

池澤夏樹

\*\*\*\*\*

この呼びかけに参加し、5月30日に生徒たちと歌うことはできませんでしたが、掲示板に貼って生徒たちに紹介しました。スタッフ、講師には「花はどこへ行った」のウチナー口バージョンを作り、6月23日の慰霊の日に生徒、講師、スタッフで歌おう、と提案しました。その日、早速、詞の読み込みをしたクラスもありました。伴奏の三線とウチナー口への翻案は珊瑚舎のスーパー講師、タケちゃんに依頼しました。

池澤さんの訳詞の「花はどこへ行った」を全編紹介することはこの紙面ではできませんが、原作者のピート・シガーは繰り返します。

When will they ever learn?

When will they ever learn?

池澤さんも繰り返します。

いったいいつになったら学ぶのか？

ああ、いつになったら？

因みにこの歌は僕が高校生の頃、バンドでボーカルをしていた頃の数少ない持ち歌の一つでした。

話題はガラリと変わるかも知れませんが、ある学会の平和教育のシンポジウムで報告者を担当する依頼を受けました。その事前打ち合わせが先日ズームでありました。そこで僕が感じている平和教育、或いは平和運動に対する若干の感想じみたことを具体的な事例を挙げてお話ししました。みなさん、しばらくシーンとしていましたが、参加者のお1人が、正確な言葉は忘れましたが「後ろから思いっきり頭を殴られたようだ」とおっしゃいました。直ぐに、「後ろからは失礼な！」と言いたくなりましたが、僕が伝えたかったのは異質な他者に対する言葉、ダイアログを模索する言葉を持つことの大切さだったのです。本番でそれが分かってもらえるような、或いは僕の勉強不足を優しく教えてくれるような時間になれば有難いです。

「花はどこへ行った」に戻りますが、ピート・シガーは“They”と言います。「彼ら」です。そこに「私」はいません。「(私たちは分かっているのに)彼らはいつになったらわかるんだろう」です。池澤さんの詞から三人称はなくなっています。異質な他者事を自分事にする想像力が試されます。МИРはそんなことばのひとつかも知れません。(ほ)

## 2022年度入学を祝う会

馬天校舎に移って来てはや2年。今年から小学校低学年の部の「キッズスコーレ」が仲間入りしました。また高等部も2学年となってにぎやかなスタートとなりました。祝う会が始まる前にはオリエンテーションがあります。在校生が珊瑚舎の時間割や授業、年間行事などについて説明します。そして「自分にとっての珊瑚舎スコーレ」について自分の言葉で語ります。

「入学を祝う会」では昨年度途中入学の生徒も合わせて舞台上りました。キッズコース5名、初等部6名、中等部9名、高等部1年生8名、夜間中学校4名です。舞台いっぱい並べられたイスに座りながら、新入生紹介やみんなで歌う歌、在校生達からの歓迎の踊りなどプログラムが進みました。

オリエンテーションでの在校生の言葉を紹介します。



### 『2022年度オリエンテーション』

高等部山川虎雅 中等部平良栄太 初等部仲里成矢

学校全体の事を知ってもらいたいのでぼくたち3人で学校のことを大きく分けて紹介します。(抜粋)

#### 「ハーリー」

毎年旧暦の5月4日に行われる沖縄の行事で航海の安全や豊漁を願い、サバニという船を漕ぎ競う沖縄の伝

統です。珊瑚舎は、1年目の時はうまく漕げなかったですが、今では、生徒、卒業生、講師、応援する人みんなが力を合わせ本気で1位を目指して参加しています。

ちなみに最後にやった3年前の馬天ハーリーでは、1秒差くらいで2位だったので今年こそは、馬天ハーリーに参加して、1位を取りたいのでよろしくお願いします。

#### 「エコネット美ら」

後期が始まると、珊瑚舎では3日間エコネット美(ちゅら)に行き、ワークキャンプをします。エコネット美の場所は、北部の名護にあり、珊瑚舎で毎週金曜日にやっている山がんまりのモチーフになっているところ。エコネットでは電気やガスなどはありません。なので、その日自分たちが使う薪を割ったり、お風呂を沸かしたり、海のゴミ拾いをしたりして、生活する上で必要な事と、エコネット美作りの手伝いが中心になるワークキャンプです。作業だけでなく、海で遊んだり釣りをしたり流しそうめんをしたりして、海の近くである自然ならではの遊びもします。

#### 「シンカ会議」(全体ホームルーム)

珊瑚舎では、学校を作ろう、授業を作ろうと呼びかけています。話し合いの時間を大切にしている、シンカ会議はその大切な時間の一つです。

この時間では、小中高全員が集まり、珊瑚舎で過ごしている気になることや、行事が近づいてきていたら行事の決めることを、みんなで意見を出し合って話し合う時間です。

#### 「学習発表会:まにまに祭 と うりづん庭」

学習発表会が前期と後期の最後にあって、7月の末にある前期の「まにまに祭」という意味は、季節季節の間、授業を通してとか、人と人との間や、前期と後期の間を繋ぐという意味で、前期の学習発表会です。

うりづんと言う意味は、潤いがつく(潤いづく)時期にやる学習発表会なのでうりづん庭(な一)になっています。後期の学習発表会です。

#### 「自己評価ノート」

珊瑚舎スコーレでは、個人に点数をつけません。なので前期と後期の終わりに自己評価ノートというものをして

自分の授業の取り組みについて各教科ずつ振り返ります。例えば自分の授業感想、クラスの雰囲気、クラスの授業の取り組みなどについてあらためて考え直していきます。

「がんまり」

珊瑚舎スコーレでは毎週金曜日に海と山で作業をします。例えば山では畑仕事や草刈り、使った道具や道具が置いてある小屋の手入れや整理、今はコロナの為にしていないですが食事を作る食事班等、海ではビーチクリーニングや草刈りなどをします。春休み、夏休み、冬休みなど長期休みの前には3日間がんまりと言って3日連続でがんまりをします。

★ ★ ★ ★

「自分にとっての珊瑚舎(初等部 仲里 成矢)」

珊瑚舎スコーレと言う場所は学習をしたり、学習以外にも自分を知って自分を認めて、問題が出るとみんなと協力して問題を解決しようとする場所です。

珊瑚舎スコーレの目標は学校を作ろうです。僕にとっての珊瑚舎は出会いを学ぶ場所かなと思いました。何故かと言うと、珊瑚舎に来なかったら友達の作り方とかそういうことわからなかったでしょう。

「自分にとっての珊瑚舎(中等部 平良 栄太)」

自分にとって珊瑚舎は色々な方向に成長させてくれるところだと思っています。いろんな方向とは例えば、普段の生活では得られない山作業の知識だとか、道具の知識、授業の中での知識、新しい人との出会いなどその積み重ねが成長させてくれると思っています。自分のわかりやすい成長で言うと、さっき説明したシンカ会議では、もちろん意見を求められる時があるんですけど、初等部にいた頃の自分は意見なんて一言も言えない子でした。ですが珊瑚舎では人前で話す機会が多いので、だんだん慣れていって今では意見をはっきりと言えるようになりました。それも成長だと思っています。自分にとっての珊瑚舎は以上です。

「自分にとっての珊瑚舎(高等部 山川 虎雅)」

自分次第で成長できる場所だと思います。シンカ会議の話し合いとかで自分の意見を言ったりすることが多くて、今まで意見を言わなかった人でも言うようになってくるし、意見を言うことは、自分はどう思っているのか知ってないと言えないと思うから、意見をいうことも自分が成長すると思う。珊瑚舎では、肯定はするけど否定はしないから、そういった面でも、自分の意見を言いやすいから、自分を作りやすいと思う。

それと、自分が挑戦したいと思ったことがここでは、出来やすいと思う。でもここは、挑戦しなかったらそれ以上の成長は無いと思います。なので、僕にとって珊瑚舎は、自分次第で成長できる場所だと思います。だから自分は、もっと成長したいのであと2年もっと挑戦していきたいと思っています。

がじゅまる  
しんかめちゃー



(生徒・学生のコーナーです)

「遠足に行って」 初等部 比嘉 美咲

4月29日、えん足に行きました。校舎からバスにのってはじめにたまぐすくじょうし(玉城グスク)に行き、れきしについて勉強しました。げしの日、朝日がきれいにおさまる門を通りました。そこから歩いてかきの花のヒージャー(垣花樋川)に行きました。山の上から水ろを通って水が流れている場所で遊んだり、ちょっとにごっている水べ

でしゃしんをとったり、日かげで休んでいる人もいました。

そのあと奥武島(おうじま)の海に行きました。海の近くにある公園で昼ごはんを食べました。食べたあと水ぎにきがえて、海に遊びに行きました。海のとなりにぎょうがあつて、そこの先から海に飛びおちる人もいました。海におちるときの水しぶきがものすごく大きい人もいたし、小さい人もいました。海で遊ぶ人も多かったけど、海べで遊んでいる人もいました。

海で遊ぶのがおわたたらみんなはきがえて、公園のぼしょにむかうと、公園には猫がたくさんいました。

みんなは猫の頭や、せ中をなでていました。帰りの時になるとみんな、かばんをもってバスまで歩いてバスで帰りました。



ふくぎのふぁー



(講師・スタッフのコーナーです)

『アクト&ドラマ』  
(中等部3年生・高等部2年生担当)

新垣 七奈

初めまして。この度アクト&ドラマIIを担当しております

す、新垣七奈(あらかき なな)です。普段は、役者をしたり、脚本を書いたり、演出をしたり、と沖縄県内を中心に演劇活動を行っております。少しだけ、私の話を書きますね。

中学2年生の秋、移動教室の途中で突然泣き喚いたことがあります。理由は全く覚えていません。驚く級友たちを尻目に鞆も持たず、上履きのまま、走って家に帰ったことだけ覚えています。その日から、あまり学校に行かなくなりしました。特に学校が嫌いだったわけではありません、別に好きでもなかったけど、でもなんとなく、なんとなく学校に行かない日々を過ごしていました。そんなある日、私は演劇に出会いました。

高校は演劇部のある学校を選びました。入学式の翌日には演劇部を訪ね入部しました。それからしばらく経つと、やっぱり学校には行けなくなりました。級友たちは優しく、授業は面白い、とてもいい学校だったのに、何故か学校に行くのがずっと辛かった。でも、どんなに学校をサボっても演劇部には必ず参加していました。役を演じることが楽しかった、台本を書くことが楽しかった、ずっとずっと苦しかった学校生活の中で、演劇部は唯一の居場所でした。

私は物事を説明したり、自分の気持ちを相手に伝えることが苦手です。でも、話すことができなくても書くことができる。私は物語を書くことで救われた気がします。

アクト&ドラマIIでは『物語を書く』作業にみんなで取り組んでいきます。「言葉」に向き合い、仲間と「創造」する難しさに挑戦していきたいと思っています。

まだ授業が始まって日が浅いですが、突拍子もない斬新なアイデアが教室中を駆け巡ります。課題に取り組みながら、ふざけ合ったり、悩んだり、意見を出し合ったりしているみんなの姿を見ていると、いつかの演劇部を思い出してしまいます。書くって難しい。でも書くって楽しい。

アクト&ドラマIIのみんなと作った作品を、是非楽しみに待っていてくださいね！どうぞよろしく願いいたします！！



# キッズスコーレのゆんたく

## 「燃ゆる野望」

キッズスコーレ担当 木村 太朗

- ・海に行つて魚を捕まえたい
- ・バンシルーを売りたい
- ・いかだを作りたい ……

キッズスコーレ担当の木村太朗です。昨年度は週3日の登校でしたが、今年度からは週5日の登校となり、在籍する6名の生徒たちは、四方八方から無限に湧き出てくる蚊と格闘しながら日々を過ごしています。

さて、冒頭の箇条書きは、キッズスコーレに通う生徒の「今年度自分がやってみみたいことリスト」の一例です。「バンシルー(グァバ)を売りたい」という野望が出てきた背景としては、キッズスコーレの生徒たちが活動している「山がんまり」敷地内に、その木が生えています。枝の先端が地面に着きそうになるくらい実っていたため、皆で段ボール箱いっぱい収穫したのでした。

収穫だけでは飽き足らず、これらを「売りたい」、そして稼いだお金で「お菓子を買いたい」という野望を抱いていました。しかし、他者に「買いたい」と思ってもらうには、様々な策が必要となります。以前、農産物や雑貨の販売を生業としていた事もある私は、その大変さと売れた時の嬉しさを、今でも実感として持っています。

売買を成立させるためには、どのような技術や知識が必要なのでしょうか。数の概念を扱えなければ、モノと金銭の交換はできません。言葉で、商品の魅力を他者に伝える必要もあるでしょう。加えてイラストなどを描く場面もあるかと思えます。要求される事に対する様々な試行錯誤の中から、数多もの学びへのきっかけが生じてきます。

生徒たちは、ひと時たりとも立ち止まるということをしません。日々泡のように生まれては消えゆく数々の野望が、ある時授業で学んだ事と交わり合う瞬間があります。それは、光り輝く劇的な場面として現れるのではなく、日常のひとコマの中にひっそりと、しかし、確かな気づきとして現れ、生徒に変化をもたらすのです。

この通信が皆様のお手元に届く頃には、恐らく生徒たちの野望は新たにされていることでしょう。山がんまりは、今日もキッズたちの野望に燃え立っております。



## スタッフを紹介します!

はじめまして。この4月から珊瑚舎の事務局に入りました、ハツ本真衣です。初等部の日本語、朝の英会話、キッズスコーレなどを担当しています。フラを踊ること、本を読むこと、食べること、自然のなかで遊ぶことが大好きです。東京出身で、2020年に沖縄に移住してきました。沖縄との最初の出会いは、小学生のころに灰谷健次郎さんの小説「太陽の子」を読んだことでした。移住に至るまでの話は長くなるので、また何かの機会にさせてください。

珊瑚舎に来る前、いくつかの仕事をしました。児童デイや学童保育で子どもたちと関わっていたこと、ウェブメディアの編集者・ライターとして取材や執筆をしていたこともあります。写真も撮ります。どの仕事でも、目の前の人の声を「聴く」ことをたくさんやりました。言葉の奥にあるものを感じながら聴いていると、自分を表現できない生きづらさや、人と比較される苦しさに触れることが幾度もありました。一方で、ありのままを受け止めてもらえる居場所があることで、その人らしさが内側から花開いていくところも目にしました。そんな場づくりをしたい、どうしたらできるのだろうと、ずっと考えています。

珊瑚舎のことは、「エコネット・美ら」のアンナさんから聞いて知っていました。(実はエコネットには東京に住んでいたころから関わっていて、かれこれ7年ほど、ヌーフアに通っているのです) 今

## お知らせ(チラシ)

『天空の博物館～波打ち際博物館』開催  
～天空の波打ち際 「展示作品募集」のためのガイダンス～  
「僕は「あの青い空の波の音が聞こえるあたりに何かとんでもないおとし物をしてきてしまったらしい」と気づきます。おとし物ですから、「僕」が持っていたものでしょう。

「僕」の「かなしみ」を知り、「あの青い空の波の音が聞こえるあたり」に行つて見ようとする人は「とんでもないおとし物」を見つけることができるかも知れません。「これかな?」「これだ!」と思った方は「とんでもないおとし物(実物でも画像でも結構です)」に600字以内のことばを添えて、「珊瑚舎スコーレ 波打ち際博物館」にお送りください。詳細は同封の「第1回企画展『天空の波打ち際』展示作品募集のご案内」をご覧ください。多くの方々の作品をお待ちしています。ご協力、どうぞよろしくお願い致します。

「天空の波打ち際」実行委員会

### ★ ★ 事務局便り ★ ★

★今年の小満芒種(梅雨)は雨が降り続いています。75年前のあの年も長雨だったそうです。ある夜間中学の生徒はそんな中南部を逃げ惑いながら目にしたみずみずしい月桃の花を逆境の中を生きて来た自分たちに重ね合わせて忘れられない特別な花だと語ります。

### ★ ★ ★

●今年度(4月1日～5月31日)寄付・カンパを頂いた方々  
石野裕子市野壽子大城義春小渡律子鹿糠文子北上田登久子城間あずき当山幸江長嶺由紀子真津昭夫矢崎智章山田道子湯本貴和與儀勝子与那覇晴海石田みどり竹内新仲村宮子横山真由美萩原真美照本祥敬岩月住江三枝菜美子所扶久代手塚賢至大城博三浦幸子式部恵子森口美千恵丹羽雅代家門収一上田秀一盛口佳子橋川由美子助川寿美子武田富美子辰巳万里子安里桂子安田直美下地孝城間栄順村上呂里黒川優子嵩元のり子渡辺明子有)ポポ象設計須田恵名嘉光夫西原邦男内田俊夫出口信一野村佳雄宮城邦昌中地八重子木名瀬武男佐久本直子今泉美代子安田圭太郎徳永桂子横山美保子西田悦子渡邊久次砂川明俊安達梨恵岸本千賀子奥本さつみ古堅苗照屋まち子見城慶和

☆ 来年2023年度から前期学習発表会「まにまに祭」を2日間開催予定としています。  
今年度は「まにまに祭」2日目のイベントとして7月31(日)ドキュメンタリー映画監督池谷薫氏をお呼びします。

上映『蟻の兵隊』&アフタートークを予定しています。詳細は後日ホームページにてお知らせします。



発行者 : 珊瑚舎スコーレ  
事務局 遠藤知子・樋口佳子  
住所 : 〒901-1414 南城市佐敷津波古 509-4  
Tel : 098-975-7781 Fax : 098-975-7783  
Mail : info@sangosya.com  
URL : https://sangosya.com

第1回企画展「天空の波打ち際」展示作品募集のご案内

かなしみ 谷川俊太郎  
あの青い空の波の音が聞えるあたりに  
何かとんでもないおとし物を  
僕はしてきてしまったらしい  
透明な過去の駅で  
遺失物係の前に立ったら  
僕は余計に悲しくなってしまった

天空の波打ち際で  
あなたが見つけた「とんでもないおとし物」に  
ことばを添えて  
暫くの間  
波打ち際博物館に  
お貸してください。

★「とんでもないおとし物」の展示について★

出品・「とんでもないおとし物」を出品する方(1人1作品とさせていただきます)

「とんでもないおとし物」を封書又は宅配便(要冷凍・冷蔵不可)で下記住所にお送りください。また、「とんでもないおとし物」とは別に Mail(info@sangosya.com)に氏名、住所、年齢、電話番号を書き、「とんでもないおとし物」に添えることば(600字以内)を添付してお送り下さい。封書には出品者の住所、氏名を書き、切手を貼った返送用封筒も同封して下さい。宅配便には出品者の住所、氏名等を書いた着払い用の配達伝票も入れて下さい。

〒901-1414 沖縄県南城市佐敷字津波古 509-4 珊瑚舎スコーレ波打ち際博物館

・「とんでもないおとし物」を画像で出品する方(1人1作品とさせていただきます)

A3用紙1枚に「とんでもないおとし物」の画像と画像に添えることば(600字以内)を書き、展示作品として下さい。Mail(info@sangosya.com)に氏名、年齢、電話番号を書き、作品(A3用紙)を添付してお送り下さい。添付した作品にも氏名と年齢を書き入れて下さい。

出品受付期間：2022年7月20日～8月5日(必着)

開館日時：2022年8月13日～9月4日 10:00～18:00 閉館日 なし 入場料 無料

応募条件：出品作を珊瑚舎スコーレが教材等に自由に使用することをご了承頂くことが応募の条件です。

収蔵作品：来場者選考等で「波打ち際博物館収蔵品」に選ばれた作品は返却されないことをご了承下さい。